記者発表

地域を“みず”から守る。
東北流域治水

令 和 4 年 9 月 16 日
国土交通省宮城南部復興事務所

＜令和元年東日本台風災害から3年＞ 砂防シンポジウムを丸森町で開催します

～ 災害の教訓を活かし、あたらしい「まるもり」をつくる ～

令和元年東日本台風災害から3年目を迎え、丸森町内では復旧が進んでおります。そのような中、今後の丸森町の「復興」に向けたまちづくりや防災意識を長く継承していくためのシンポジウムを開催します。

◆開 催 日 時 ： **令和4年9月28日（水）13:30 ～ 16:00**

◆場　　所 ： **丸森町立丸森中学校　体育館**

◆開 催 形 式 ： **ハイブリッド開催　（会場聴講及びオンライン聴講）**

◆主　　催 ： 国土交通省東北地方整備局　宮城南部復興事務所

◆内　　容 ： **【第1部】 基調講演（13:40～14:30）**

令和元年東日本台風災害は、なぜ被害が拡大したのか？

筑波大学　生命環境系　教授　内田太郎

【第2部】 パネルディスカッション（14:45～15:55）

教訓をつなぎ、活力ある明日のまるもりをつくる

※1 出演者等の詳細は〔別添4〕参照

※2 第2部では防災教育の観点で丸森中学校3年生生徒も会場で聴講します

◆入　場　料 ： 無料

◆一 般 申 込 ： 〔別添3〕QRコード または 申し込みサイトから事前申し込み

＜申込みサイトURL＞ http://sabopc.or.jp/marumori-symposium2022/

◆取 材 申 込 ： 〔別添1〕取材要領 参照

◆ そ の 他 ： 宮城南部復興事務所ではSNSを活用し、丸森町の被災前の風景や令和元年東日本台風の災害状況などの写真や動画を募集しております 〔別添5〕参照

発表記者会：白石記者クラブ、宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　宮城南部復興事務所

宮城県伊具郡丸森町字除北20番地　電話：0224－51－8290（代表）

副所長（技術）　斎藤（さいとう）　巧（たくみ）　　建設専門官　松田（まつだ）　宏一（こういち）

〔別添１〕

〔取材要領〕

１．事前申し込みについて

取材を希望される方は、下記〔メール記載事項〕を記入の上、「申込先のメールアドレス」へ送信願います。

申 込 先： thr-miyaginanbu-mi@mlit.go.jp

申込期限： ９月２６日（月）１２：００

（スムーズな運営のため、御理解と御協力をお願いいたします。）

〔メール記載事項：本文に直接記載いただくことも可能です。〕

メール件名：220928 砂防シンポジウム

松田　あて

下記のとおり９月２８日の取材を申し込みます。

1）所属記者会名　（宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会 等）

2）取材者（代表者）の会社・部署名・役職・氏名・連絡先

（連絡先（携帯番号等）は必ず、記載してください）

3）取材者の人数　（カメラマン、音声担当等も含めた総人数）

上記事項は、開催中止などのお知らせや、取材スペースの確保に必要な情報となりますので、記入漏れの無いよう御協力をお願いいたします。

２．取材当日について

○ 丸森町立丸森中学校　体育館入り口にて受付をお願いいたします。

・受付時間　１２：３０～１３：００

（注意事項）

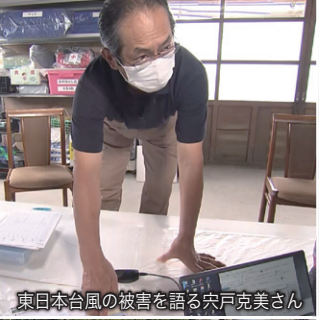
・取材にあたっては担当者の指示に従うようお願いいたします。

・新型コロナウイルス感染防止のため、体調の悪い方は、出席を控えてください。

・取材をされる方は、マスクの着用をお願いします。

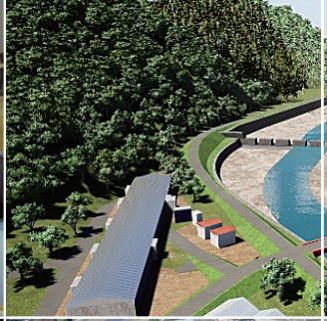
・密集回避のため、最低限の人数による取材をお願いします。

〔別添２〕


東日本台風の被害を語る宍戸克美さん


学校と地域が連携して防災体制を構築（舘矢間小学校）






五福谷川遊砂地（完成時のイメージ）


令和元年東日本台風
丸森町役場周辺浸水状況


ブラマルモリVol.1@丸森（R4.6.19開催）

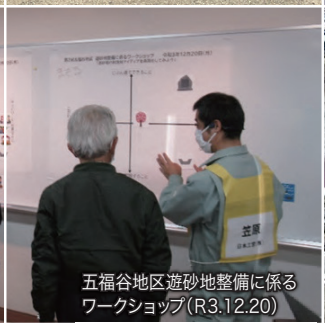







令和元年東日本台風　家屋の被災状況
（五福谷川）




五福谷地区遊砂地整備に係る
ワークショップ（R3.12.20）




令和元年東日本台風　土砂・洪水氾濫
（五福谷川）

あの災害を
忘れない

令和元年東日本台風災害から３年

丸森地区 砂防シンポジウム

～災害の教訓を活かし、あたらしい『まるもり』をつくる～

第１部 基調講演

令和元年東日本台風災害は、なぜ被害が拡大したのか？

講演者：内田 太郎（筑波大学 生命環境系 教授）

第2部 パネルディスカッション

教訓をつなぎ、活力ある明日のまるもりをつくる

コーディネーター：柴山 明寛（東北大学災害科学国際研究所 准教授）
パ ネ リ ス ト：宍戸克美（丸森町上地地区在住）
野田　豊（丸森町立舘矢間小学校主幹教諭）
沖澤鈴夏（むらのさね・地域づくりコーディネーター）
保科郷雄（丸森町長）
水越　崇（宮城南部復興事務所長）

主催 国土交通省 宮城南部復興事務所
共催 丸森町、宮城県　後援 全国治水砂防協会、東北地域づくり協会

会場及びオンライン聴講による **ハイブリッド開催**

砂防シンポジウムへのご参加方法の詳細は裏面をご覧ください。

日時 令和４年 **9.28**（水）

参加無料
13:30
開　場 12:30

場所 丸森町立丸森中学校 体育館



お問い合わせ　国土交通省 宮城南部復興事務所 工務第一課　TEL 0224-51-8678

〔別添３〕

あの災害を忘れない

令和元年東日本台風災害から３年

丸森地区 砂防シンポジウム

～災害の教訓を活かし、あたらしい『まるもり』をつくる～

令和４年 **9月28日（水）**

会場／丸森町立丸森中学校 体育館

開催趣旨

令和元年東日本台風により、丸森町では、近年経験しなかった土砂災害等が発生し、死者・行方不明者12名、1,000件を超える建物被害など、大きな被害が発生しました。

災害発生から3年の歳月が経過し、国・宮城県、丸森町等による「復旧」が進み、まちは以前の姿を取り戻しつつあります。しかし、これだけの災害を受けた地域として、単に「復旧」にとどまらず、災害を契機にまちの新しい姿ができあがる「復興」の実現が期待されています。

このシンポジウムは、災害の教訓を活かした今後のまちづくりや防災意識を長く継承していくための方策などについて、地域のみなさんを交えて意見交換を行うものです。



土石流による被害状況（五福谷川）

プログラム

※出演者やプログラムの内容は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

13:30	開会挨拶	東北地方整備局河川部長　板屋英治 丸森町長　保科郷雄
13:40	【第1部】基調講演（50分） **令和元年東日本台風災害は、なぜ被害が拡大したのか？** 講演者：内田 太郎（筑波大学 生命環境系 教授）	
14:30	休 憩	
14:45	【第2部】パネルディスカッション（70分） **教訓をつなぎ、活力ある明日のまるもりをつくる** コーディネーター　柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所 准教授） パネリスト　宍戸克美（丸森町上地地区在住） 野田　豊（丸森町立舘矢間小学校主幹教諭） 沖澤鈴夏（むらのさね・地域づくりコーディネーター） 保科郷雄（丸森町長） 水越　崇（宮城南部復興事務所長）	
15:55	閉会挨拶　宮城県大河原土木事務所長　後藤孝二	16:00　閉会

砂防シンポジウム ご参加方法

会場のお席には限りがございます。当日受付も致しますが、定員を超える場合には事前申込をされた方を優先させていただきます。

会場参加をご希望の方

QRコードを読み込み、申込み専用サイトから事前登録をお願い致します。

（申込みサイトURL）
http://www.sabopc.or.jp/marumori-symposium2022/

会場参加

オンライン聴講をご希望の方

オンライン聴講の場合、YouTubeLiveの視聴用アドレスにアクセスするか、QRコードを読み込みご視聴ください。

（視聴用アドレス）
https://qrtn.jp/bdnqy3u

オンライン聴講

〔別添４〕

あの災害を忘れない

令和元年東日本台風災害から３年

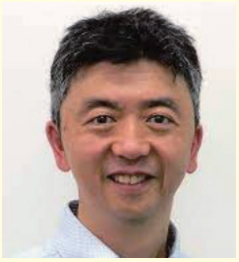
丸森地区 砂防シンポジウム

～災害の教訓を活かし、あたらしい『まるもり』をつくる～

登壇者紹介

【第1部】基調講演

令和元年東日本台風災害は、なぜ被害が拡大したのか?



講演者

内田太郎（うちだ たろう）

筑波大学 生命環境系 教授

2000年京都大学大学院 森林科学専攻 (博士課程)修了。同年国土交通省入省。2006年国土交通省河川局砂防部砂防計画課計画係長。2007年土木研究所土砂管理研究グループ主任研究員。2018年国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 砂防研究室室長等を経て、2019年7月より筑波大学生命環境系准教授。2022年9月より同教授。

気候変動が土砂災害に及ぼす影響や土砂・洪水氾濫による災害を防止・軽減するための汎用シミュレータの開発などを近年の研究テーマとする。令和元年東日本台風災害を契機に設置された東北地方整備局宮城南部復興事務所 阿武隈川水系内川流域 土砂・洪水氾濫対策技術検討会の委員でもある。

【第2部】パネルディスカッション

教訓をつなぎ、活力ある明日のまるもりをつくる

コーディネーター

柴山明寛（しばやま あきひろ）

東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門
災害文化アーカイブ研究分野　准教授



2008年12月東北大学大学院工学研究科助教等を経て、2012年6月より現職。現在は、東日本大震災をはじめとする自然災害に関するあらゆる記録、知見を収集し、次の災害に活かす研究に従事。2017年から宮城県「自主防災組織育成・活性化支援モデル事業」において丸森町金山地区及び舘矢間地区を担当。丸森町令和元年台風第19号災害検証委員会の委員長や丸森町復興推進委員会の副委員長も務めている。

パネリスト

野田　豊（のだ ゆたか）

丸森町立舘矢間小学校主幹教諭



宮城県小学校教諭として大河原管内で教鞭をとり、特に丸森町内での勤務が長い。平成26年度から防災担当主幹教諭、平成28年度から安全担当主幹教諭として丸森町内小・中学校防災主任者への支援等に取り組んできた。令和元年東日本台風時には、七ヶ宿小学校に赴任中であったが、丸森町の災害状況について、校内児童にも発信。令和3年より舘矢間小学校に赴任。宮城県教育委員会の「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践推進協力校として児童の防災教育に積極的に取り組む。

パネリスト

保科郷雄（ほしな くにお）

丸森町長



丸森町生まれ。丸森町議会議員を務めたのち、2011年1月に丸森町長に就任し、現在に至る。就任直後に東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所事故の対応に注力する。また、町政史上最大の被害を受けた令和元年東日本台風災害では自ら陣頭指揮を執り、現在も復旧・復興とその先のまちづくりの実現に向けて各事業に取り組んでいる。

パネリスト

宍戸克美（ししど かつみ）

丸森町上地地区在住



丸森町内生まれ。長く仙南地域広域行政事務組合の消防職員を務め、東日本大震災時は県南沿岸部市町の現場対応にあたった経験を持つ。現在は丸森町の民生委員として、地域の現状や住民の流出入の把握に務めている。令和元年東日本台風時には、早くより雨量の経過に注視し、周辺住民への避難の呼びかけ、要配慮者宅には自ら足を運ぶなどの行動により、人的被害の回避に貢献した。

パネリスト

沖澤鈴夏（おきざわ すずか）

むらのさね・地域づくりコーディネーター



東日本大震災を契機として、大学在学時に南三陸町でのボランティア活動を行う。地域に関わる仕事に関心を持ち、2017年宮城県へ新卒Iターン。2018年「(一社)みやぎ連携復興センター」に就職し、県内様々な市町の復興や地域づくりに携わる。2021年より丸森町地域おこし協力隊として活動した後、2022年4月に独立。現在は地域づくりや住民自治を推進するコーディネーターとして活動中。丸森町の魅力を再発見するための「まちあるき」イベント等を主催。

パネリスト

水越　崇（みずこし たかし）

宮城南部復興事務所長



令和元年東日本台風発生時は、東北地方整備局河川部地域河川調整官として東北地方整備局災害対策本部で情報収集にあたっていたが、災害の発生を受け、直後から土砂災害の被災状況調査等のため、丸森町に入る。令和元年11月に発足した前身の宮城南部復興出張所長を経て、令和2年4月の宮城南部復興事務所開所に伴い初代事務所長に就任し、現在に至る。

こんな写真を募集しています！

つなぐ まるもり つたえる

1 災害前の生活の様子がわかる写真





ご自宅にあるプリントした写真を撮影したものでもＯＫ！

2 災害直後の様子がわかる写真





3 現在の街の様子がわかる写真





未来に語り継ぐ、丸森の写真と映像を募集しています！

甚大な被害をもたらした、
令和元年東日本台風による災害の記憶を風化させず後世に語り継ぎ、
近年激甚化する自然災害に備えるべく、国土交通省宮城南部復興事務所では、
防災・減災教育に活かすための取り組みを行なっています。

その一環として、宮城南部復興事務所ホームページにて
みなさまから寄せられた丸森町の写真を活用したWEB写真展を
令和5年2月上旬～３月下旬に開催予定です。

今回の写真展を皮切りに、来年度以降も
さまざまな取り組みにつなげていければと考えておりますので、
貴重な災害当時や災害前の写真や動画、
復興が進む今の写真と動画の記録の収集にご協力をお願いいたします。

LINE特設サイトへ遷移するQRコード

募集期間

第１期
2022年9月16日（金）～2022年12月20日（火）

応募方法

LINE公式アカウント「まるもり－つなぐ、つたえる－」に登録後、トーク画面から以下を送信してください。

❶ WEB写真展等で公開してよいお名前（ニックネームでも可）
❷ 写真または動画（プリント写真を撮影いただいたものでも可）
❸ 住所等撮影場所が分かる情報（可能な範囲で構いません）
❹ 撮影日（可能な範囲で構いません）

▼公式アカウントの登録方法

以下のQRコードを読み込んでアカウントを登録いただくと、自動返信にて写真投稿ができます。



お問い合わせ

まるもり－つなぐ、つたえる－事務局
marumori-line@sabopc.or.jp

お問い合わせの際は、以下の内容をメール本文に記載くださいませ。
平日の3営業日以内に、事務局より、メールまたはお電話にてお返事を差し上げます
① お名前
② お電話番号
③ お問合せ内容